

矢祭子ども司書になる皆さんへ

皆さん、おめでとう！

子ども司書という、子どもでも読書を広める役割を果たす児童や生徒を育てる取り組みが、全国に先がけて矢祭町で始められて、はや10年になるのですね。

今年度の第10期は、受講生が四年生五人と、これまでより人数の少ない年になりました。しかし、受講生が少なくても、皆さん一人ひとりにとっては、学びの内容が薄くなったわけではありませんよね。

むしろ人数が少ないほうが、学ぼうとする気持ちが引き締まるし、責任感が強くなったのではないでしょうか。

去年の夏以来、子ども司書の講習の時間はたくさんありましたね。ふだんの授業と違って、図書館の司書の仕事や本の分類を学んだり、大きな図書館を見学したり、自然界を歩いて俳句を詠んだりするなど、楽しかったでしょう。皆さんの心の中には、きっと通常の教科を学んだだけの友達より、多くのことを身につけたと思います。

その身につけたものを、これから学校や町の行事で役立ててください。

そして、もう一つ大事なことは、皆さん一人ひとりが、本の種類の多さと広がりには驚き、本に対する親しみと愛着心が強くなったにちがいないということです。それは、これから成長していくうえで、大きな心の財産になったと言えます。

この数か月、頑張ったね。その心の財産を忘れることなく、これからは、様々な本を読んだり、友達や家族や町の人々に本をすすめる役割を果たしたりしてください。

平成三十一年二月二十三日

ノンフィクション作家 柳田 邦男